

科目名称：	マンガ・キャラクター演習Ⅲ	
担当者名：	新井浩 知原朱美 新矢歩世 大谷友理	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	5
授業の目的・テーマ		
10月は地域をテーマにした作品制作に取り組み学園祭で展示を行う。自分の描きたいものを描くだけでなく、目的や趣旨を盛り込んだ作品作りを意識する。11月以降は卒業制作に取り組む。それぞれがスケジュールたて、計画的に仕事をすすめる。まとまった大きな制作をやり遂げ、卒業後もそれぞれの制作を続けていって欲しい。		
授業の達成目標・到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・学園祭での作品展示 ・卒業制作中間審査2回 最終審査1回の作品提示 ・作品集や作品展示など自分の作品の見せ方を考える ・自分でスケジュールを管理し、計画的に進めていく ・卒業制作は作品制作終了後に達成感を感じて欲しい 		

美術学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、主に基礎教育科目により、基礎知識を修め幅広い教養を身につけ、多様な文化や考えに対応できる。	
DP(2)	主に専門科目により、美術に関する理解を深め豊かな表現力を身につけ、社会の一員として貢献できる実践力を身につけている。	○
DP(3)	多様な社会に対応できるように、自己表現を深化させながらも他者の意見を尊重し、様々な表現を受け入れる豊かな人間性をもっている。	
DP(4)	様々な課題に取り組み、応用力と創造力を身につけて、その中から自己の個性を磨き表現できる。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	課題への取り組み	合計
美術DP(1)					0
美術DP(2)			70	30	100
美術DP(3)					0
美術DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	新井浩/デザイナー・イラストレーター・映像制作	《経験年数1》 10年
	新矢歩世/マンガ家	《経験年数2》 22年
	知原朱美/マンガ家・イラストレーター	《経験年数3》 18年
	大谷友里/デザイナー、アートディレクター、イラストレーター、Webデザイナー	《経験年数4》 17年

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
アイデア・テーマを探し作品制作を行う。	現在の流行や、社会的要望等も意識している。アイデアの深め方や着眼点に新鮮さがある。	自分の独自性を加えようと試みている。ディスカッション等で深めていける。	アイデアを出す方法を知っており、実践している。	アイデアがでない。意識して考えずになんとなく制作している。
対象（人物・背景・小物等）を魅力的に描く描写力と色彩感覚がある。適切な画材を使っている。	自分のスタイルで対象を描ける。自分の表現したい内容と色使いが一致している。	見たものが再現できる。描写や色彩に関する知識があり、実践できる。画材に慣れ親しんでいる。	ある程度、見たものが再現できる。描写や色彩に関する知識がある。	見たものが描けない。描写や色彩に関する知識が足りない。
文字の扱いや画面構成など、デザイン的な処理ができる。PCによるDTPができる。	自分の制作意図に一致したデザインができる。技術的な工夫がある。	文字の扱い、レイアウトの基礎を知っており実践できる。PCによるDTP処理が実践できる。	文字の扱い、レイアウトの基礎を知っている。興味を持っている。見た者を再現できる。	デザイン的な知識が無い。デザイン的な処理に興味・意識がない。
作品制作に自発的・意欲的に取り組む。	作品の応募・展示など、自分の作品を授業外でも積極的に発信している。	締め切りに間に合わせる。日常的に制作に向かう態度が身につけている。	締め切りに間に合う努力がある。より良い作品を作りたいという意欲があり、練習・研究をしている。	締め切りに間に合わない。課題以外取り組まない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第1週 産業界や地域から依頼された課題制作① ・外部機関と連携した課題解決型学習	アイデア出しは各自24時間を使って行い、授業ではそれを形にする時間にあてること	300分
第2週 産業界や地域から依頼された課題制作②	様々な作品を見てアイデアを膨らませる	300分
第3週 産業界や地域から依頼された課題制作③	様々な作品を見てアイデアを膨らませる	300分
第4週 地域を題材にした作品制作④・金城祭での作品展示	地域について調査をし、そこからタイトル案を考察する	300分
第5週 長編マンガ①（ネーム1）／キャラクター制作（企画1）	長編マンガの構想とキャラクタースケッチをすすめておく	300分
第6週 長編マンガ①（ネーム1）／キャラクター制作（企画1）	ネームの推敲を進める	300分
第7週 長編マンガ①（ネーム1）／キャラクター制作（企画1）	教員のアドバイスを取り入れ、さらに推敲を進める	300分
第8週 卒業制作中間審査①（ネーム完成・企画および実作1点以上） 制作中の作品についてプレゼンテーションを行う	途中経過を端的に報告する準備をしておく	300分
第9週 長編マンガ②（下書き）／キャラクター制作（実作1）	全体の1／3を目安に下書きを各自進めておく	300分
第10週 長編マンガ②（下書き）／キャラクター制作（実作1）	全体の1／3を目安に下書きを各自進めておく	300分
第11週 長編マンガ②（下書き）／キャラクター制作（実作1）	全体の1／3を目安に下書きを各自進めておく	300分
第12週 卒業制作中間審査②（マンガ下絵完成・実作5割以上）	作品の進行報告と作品展示についての構想をすすめておく	300分
第13週 長編マンガ③（ペン入れ仕上げ）／キャラクター制作（実作2）	表紙、ポスターにあたるカラーイラストを中心にすすめる	300分
第14週 卒業制作最終審査（8割以上の完成） 制作中の作品についてプレゼンテーションを行う	作品の進行報告と作品展示についての構想をすすめておく	300分
第15週 作品の展示についての研究	額装や展示効果を再確認し、冊子制作等をすすめておく	300分

事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。アイデアを練る、色や形、描写に関する研究は作品をよりよくするために必須のことである。学校での作業は教員のアドバイスを受ける場として活用し、作品をより充実したものにするために日頃から取り組む習慣をつけてほしい。具体的にはアイデアメモ・ネーム・下書きを確認することになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
（卒展制作の取り組み）50% アイデア、意欲、作品量、スケジュール管理を見る（その他課題）20% アイデア、質、完成度を見る／全作品提出を原則とする。（実習態度）30% 意欲、研究、調査。教員とのやり取りの中でブラッシュアップしていく。

課題に対するフィードバック

担当教員から課題毎にs～cの評価をつけ返却する。個別に指導を行う。

教科書・参考書

必要に応じプリントを配布する。各種技法書及びPixivなどインターネット上にある教材を幅広く見て研究すること。